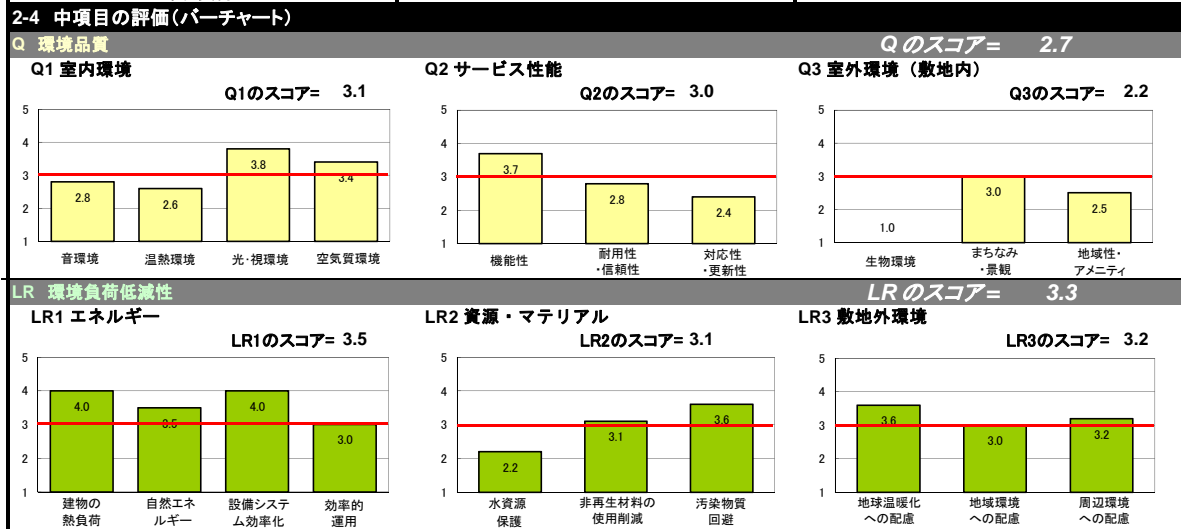
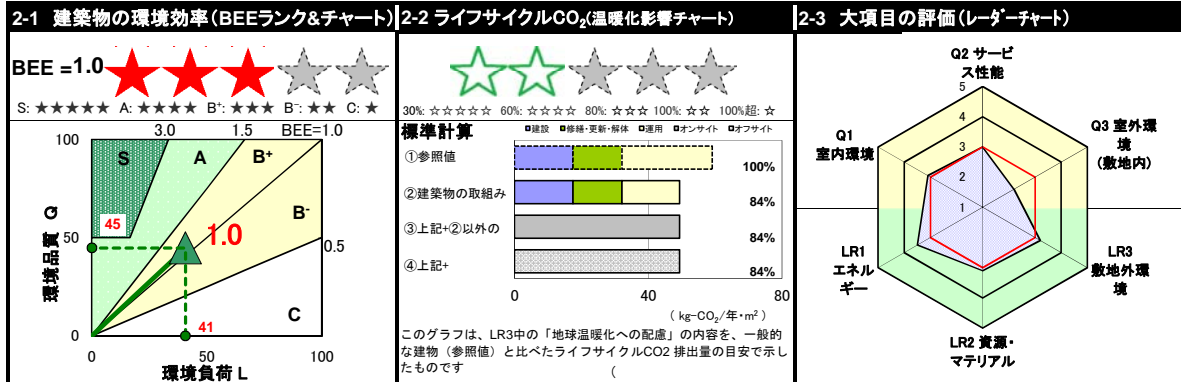


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮)株式会社オーテック 本社工場	階数	地上2F
建設地	小牧市大字大草字禮之上5419番10	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火指定なし	平均居住人員	70 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,520 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定	評価の実施日	2015年1月17日
敷地面積	10,812.88 m ²	作成者	ヤスウラ設計 角田
建築面積	3,945.14 m ²	確認日	2015年1月17日
延床面積	4,824.54 m ²	確認者	ヤスウラ設計 水野



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>32.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	32.2 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	32.2 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								3.1
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能				会議室壁はPB12.5二枚張り(GW充填)としている	1.0	0.60	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					4.0	0.40	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-
1.3 吸音				事務所まわりの床はカーペット、天井は岩綿吸音板を使用している	4.0	0.20	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				事務所北面・東面はカーテンウォールとしている	4.2	0.30	-	-
2 方位別開口				事務所は南・東に窓を設置している	5.0	0.60	5.0	-
3 昼光利用設備					3.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 映り込み対策								
3.3 照度				1単位で照明制御出来、自動照明制御が出来るようにしている	3.0	0.15	-	-
3.4 照明制御					5.0	0.25	-	-
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材としている	4.0	0.50	-	-
2 アスベスト対策					4.0	1.00	-	-
3 ダニ・カビ等					-	-	-	-
4 レジオネラ対策					-	-	-	-
4.2 換気				基準法の1.2倍以上の換気風量がある	2.6	0.30	-	-
1 換気量					4.0	0.33	-	-
2 自然換気性能					3.0	0.33	-	-
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.33	-	-
4 給気計画					-	-	-	-
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視					3.0	0.20	-	-
2 喫煙の制御					-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応				OA707設置予定で、OA機器用コンセント容量は40VA/m ² 以上としている	3.7	0.40	-	-
3 バリアフリー計画					3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性				天井高さH2700、開口部は十分にとっている	4.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観					4.0	0.33	-	-
2 リフレッシュスペース				用途・機能に合わせた内装計画・照明計画を行っている	3.0	0.33	-	-
3 内装計画					5.0	0.33	-	-
1.3 維持管理				水切り、塗り床材、メッキ処理等、維持管理に考慮している	4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計				管理倉庫やSKを設置している	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					4.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務					-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性					2.8	0.31	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.48	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				内部は塗り床・タイル貼り床や、ケイカル板・ボード張り壁天井としている	2.9	0.33	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				屋内露出ダクトはガルバ仕上げ、屋外露出ダクトはSUS製としている	3.0	0.23	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				空調冷媒は銅管を使用、給水塩ビライニング銅管、排水VP管	2.0	0.23	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					5.0	0.09	-	-
					4.0	0.08	-	-
					4.0	0.15	-	-
					2.0	0.23	-	-

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	②		2.2	0.19			
	2	給排水・衛生設備			1.0	0.20			
	3	電気設備			3.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法			1.0	0.20			
	5	通信・情報設備			3.0	0.20			
	5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
2階にて検討、S造ラーメン構造のため内部に構造耐力壁なし									
2.8 0.31									
2.0 0.60									
4.0 0.40									
2.0 0.31									
3.2 荷重のゆとり									
2.5 0.38									
3.3 設備の更新性									
1 空調配管の更新性									
2 給排水管の更新性									
3 電気配線の更新性									
4 通信配線の更新性									
5 設備機器の更新性									
6 バックアップスペース									
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出 ● ③ 1.0 0.30 - - 1.0									
2 まちなみ・景観への配慮 ● ④ 3.0 0.40 - - 3.0									
3 地域性・アメニティへの配慮 2.5 0.30 - - 2.5									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上 ● ④ 2.0 0.50 - -									
3.2 敷地内温熱環境の向上 3.0 0.50 - -									
LR 建築物の環境負荷低減性									
LR1 エネルギー									
1 建築物の熱負荷抑制 全熱交換機・効率のよい室外機を設置する予定 4.0 0.05 - - 4.0									
2 自然エネルギー利用									
2.1 自然エネルギーの直接利用 3.5 0.27 - - 3.5									
2.2 自然エネルギーの変換利用 太陽光パネルを設置する予定 3.0 0.50 - -									
2.2 自然エネルギーの変換利用 太陽光パネルを設置する予定 4.0 0.50 - -									
3 設備システムの高効率化									
3.1 設備システムの高効率化 通路上照明に人感センサー設置、事務所に熱交換換気システム 4.0 0.41 - - 4.0									
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)									
集合住宅の評価									
4 効率的運用 3.0 0.27 - - 3.0									
4.1 モニタリング 3.0 0.50 - -									
4.2 運用管理体制 3.0 0.50 - -									
LR2 資源・マテリアル									
1 水資源保護									
1.1 節水 2.2 0.15 - - 2.2									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用 1.0 0.40 - -									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用 3.0 0.60 - -									
1 雨水利用システム導入の有無 3.0 0.67 - -									
2 雑排水等利用システム導入の有無 3.0 0.33 - -									
2 非再生性資源の使用量削減									
2.1 材料使用量の削減 3.1 0.63 - - 3.1									
2.2 既存建築躯体等の継続使用 2.0 0.07 - -									
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 3.0 0.25 - -									
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 3.0 0.21 - -									
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用 ● 再生木材デッキを屋上デッキに使用 3.0 0.21 - -									
2.5 持続可能な森林から産出された木材 - - - -									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組 ● OAフロアを使用している 4.0 0.25 - -									
3 汚染物質含有材料の使用回避									
3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.6 0.22 - - 3.6									
3.2 フロン・ハロンの回避 3.0 0.32 - -									
3.2 フロン・ハロンの回避 4.0 0.68 - -									
1 消火剤 - - - -									
2 発泡剤(断熱材等) ODP=0<GWPが低い断熱材を使用 5.0 0.50 - -									
3 冷媒 3.0 0.50 - -									
LR3 敷地外環境									
1 地球温暖化への配慮 ① 事務所部は、ペアガラスや断熱材により、熱負荷を軽減する 3.6 0.33 - - 3.6									
2 地域環境への配慮 3.0 0.33 - - 3.0									
2.1 大気汚染防止 3.0 0.25 - -									
2.2 温熱環境悪化の改善 3.0 0.50 - -									
2.3 地域インフラへの負荷抑制 3.0 0.25 - -									
1 雨水排水負荷低減 ● 3.0 0.25 - -									
2 汚水処理負荷抑制 ● 3.0 0.25 - -									
3 交通負荷抑制 ● 3.0 0.25 - -									
4 廃棄物処理負荷抑制 3.0 0.25 - -									
3 周辺環境への配慮									
3.1 騒音・振動・悪臭の防止 3.2 0.33 - - 3.2									
1 騒音 ● 3.0 0.40 - -									
2 振動 ● 3.0 0.50 - -									
3 悪臭 - - - -									
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制 3.0 0.40 - -									
1 風害の抑制 3.0 0.70 - -									
2 砂塵の抑制 1.0 - - -									
3 日照阻害の抑制 3.0 0.30 - -									
3.3 光害の抑制 4.4 0.20 - -									
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策 5.0 0.70 - -									
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策 3.0 0.30 - -									

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

仮)株式会社オーテック 本社工務

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				3.6	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10		
② 資源の有効活用					2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	2.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19		
③ 敷地内の緑化				1.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12		
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 敷地内に緑地を多く取り環境に配慮し、また、沿道沿いに樹木を設けることで街路の景観への貢献をする。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務所の開口部には複層ガラスを使用し、事務所下のピロティとなる部分には断熱材を事務所スラブ下・ピロティ天井内と2重で入れ、室内環境に配慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 工場・事務所と、それぞれ機能に合った内装材を使用している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の緑化に努めている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 太陽光発電パネルを設置する予定でいる。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋上デッキに、木とプラスチックの再生複合材である再生木材デッキを使用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に配慮が出来ていない。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特に配慮が出来ていない。